

様式 4

<p style="text-align: center;">令和 5 年度 第 8 回 富士見市社会教育委員会議 議事録</p>						
日 時	令和 6 年 3 月 1 9 日 (火)		開会	午後 7 時 0 0 分		
			閉会	午後 8 時 4 5 分		
場 所	富士見市立中央図書館 2 階 視聴覚ホール					
出席者	委 員	本田議長	渡邊副議長	蘇武委員	内海委員	秋元委員
		○	○	○	欠	○
		小栗委員	関野委員	戸田委員	八木橋委員	深瀬委員
		欠	○	○	○	○
	事務局	生涯学習課 主任				
公 開 ・ 非 公 開	公開 (傍聴者 0 人)					
議 題	<p>1 あいさつ</p> <p>2 生涯学習課より報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会からの脱退について</li> <li>・ 令和 6 年度社会教育関係団体に対する補助金の交付について</li> </ul> <p>3 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 3 4 期のテーマ決定に向けて</li> </ul> <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各会議への参加報告</li> </ul>					

## 議 事 内 容

### 1 あいさつ

### 2 生涯学習課からの報告

#### ・埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会からの脱退について

**【事務局】** 入間地区社会教育協議会について、富士見市を含め入間管内の全13市町が加入している。4つの部会があり、その中に主管課長部会という部会がある。その部会で決めたことについて、報告させていただく。昨年、主管課長部会の中で、埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会から退会することについて提案があった。部会内で協議した結果、令和6年度の総会にて、入間地区社会教育協議会会則を改正し、「埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会に加盟する」という条文を削除することを提案することとなった。そもそも埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会とは、県内の5地区が加盟している協議会。理事会や総会、研修会の開催や、全国研究大会及び関東甲信越静研究大会への会長、副会長の派遣を行っている。退会を検討するに至った理由は、まず加入している地域が限られており、埼玉県も加入していないということ。負担が大きい割にメリットが少ないこと。なおこの退会の件については、13市町の各教育委員会で教育長まで意思を確認している。賛成が12自治体、反対が1自治体という結果をうけ、主管課長部会として議案として提出する運びとなった。

**【委員】** 1自治体が退会について反対したとのことだが、その理由はなにか。

**【事務局】** 理由については把握していない。令和元年度に関東甲信越静研究大会が埼玉県で開催された。その時の様子から、教育長の意向で反対したと聞いている。賛成した自治体については、やはり社会教育委員のみなさんのご負担も大きいため、賛成したものと思われる。

**【委員】** 埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会から助成金が出ていると聞いている。金銭的には問題ないのか。

**【事務局】** 令和4年度の状況になるが、生涯学習フォーラム開催にあたり助成金をもらっている。しかし一方で入間地区社会教育協議会の方から負担金を支払っており、歳出超過となっている。各地区から集められた負担金は、関東甲信越静研究大会が埼玉県で開催される時の資金として積み立てられている。

※5月17日に開催される入間地区社会教育協議会総会における議決権については、担当している委員へ一任する

#### ・令和6年度社会教育関係団体に対する補助金の交付について

**【事務局】** 社会教育法第13条に基づき、社会教育関係団体に補助金を交付す

るため、社会教育委員のみなさんにご意見を伺う。令和6年度は、全部で13の社会教育関係団体に対して補助金の交付を予定している。

【委員】 富士見市文化財保存団体連絡協議会補助金について、交付先はどのような団体か。富士見市文化財保存団体連絡協議会という団体か。

【事務局】 委員ご指摘のとおり。獅子舞やお囃子を行っている7団体から組織されており、道具などの修繕料に充てていただいている。

### 3 協議事項

#### ・第34期のテーマ決定に向けて

【議長】 これまで現状と理想の姿を確認してきた。理想の姿は各委員から意見を出していただき、大まかな内容で分類した。現状についてもアクションプランを確認し、そこから強みと弱みを抽出し、まとめた。前回の会議では、理想の姿のまとめと、現状の強みと弱みのまとめを比べて、どこに焦点を当てるか意見を出していただいた。各委員から出された意見はまとめて資料として本日配布している。実現したい状態や解決したい課題を語っていた方、目指したいことを語っていた方、特にフォーカスすると良さそうなポイントを語っていた方がいらっしまったと思う。各委員の意見の関係性も整理した。このまとめ方になにか意見はあるか。

【委員】 親世代への働きかけが重要とあるが、重要なのは親世代に対してだけではなくなかったと思う。他にも子ども中心に、中学生などにも働きかけることが重要という話ではなかったか。

【議長】 子ども中心という考えが前提としてあり、子どもを巻き込むためには親への働きかけも必要であろう、という考え方であったと認識している。

【委員】 目指したいことの中に多様な人たちとある。子ども中心、親世代への働きかけが重要だとしてしまうと、それは多様な人たちではなくなくなってしまわないか。

【議長】 目指したいことがかなり広くなっており、このままだと手の打ちようがない。全方位である必要があるものについてはこのまま残す必要があると思うが、もう少し対象を絞らないと策を講じることができない。どこに的を絞るか、ということこれから考えていきたい。的を絞る先の、あくまで1つの案として、子どもや親世代という対象がある。実現したい状態や解決したい課題というのは、なにか取り組んだ結果となるもの。なので、テーマとして設定するのは目指したいことに挙げている部分になるものだと考えている。しかし、数多くの人たちがハードルを感じず参加でき、自分なりの適度な距離感で自ら望んで関わり続けられる、地域の場づくり、だとテーマが大きすぎる。ここから絞って、策を考えていく必要がある。各要素を分解して考えていければ。この流れも資料にまとめたので確認

いただきたい。まずは対象について意見を伺いたい。

【委員】 私は子どもを中心に考えられたらと考える。子どもが将来大人になっていく。将来を考えた時に、子ども達が「この地域で育ってよかった」と思える経験をたくさんすることは、とても良いことだと思う。その中で地域の人とつながったり、参画したりという体験をすることによって、自分たちも地域で活動するという力が育まれる。この力はきっと将来につながっていくものではないか。

【議長】 子どもを中心に、という意見は前回から複数の委員より出されていた。子どものため、となると大人も集まりやすいように感じる。人を巻き込みやすいし、子どもがいるとにぎやかで楽しい。

【委員】 委員の考える子どもというのはどの年代か。

【委員】 地域の子どもの意識の強い、小学生、中学生を想定している。

【議長】 私も中学生くらいまでを想定していた。高校生くらいになると自立してくるので、大人に係わる段階という、中学生くらいまでではないか。

【委員】 私は PTA など子ども関係の経験から委員として参加しているので、子どもに焦点を当てるということには賛成。保育園、小学校、中学校と PTA 役員を経験してきた。保育園児は意思の表明はできるが、保護者が一緒でないと参加できない。小学生になると自分の意思で 1 人でも参加できる。中学生になると、私の住む地域では中学生との関わりも比較的あるのでつながりやすい。高校生になると、大人の手伝いをしてもらう形で係わっていけるといいのではないか。横だけでなく、縦のつながりも築いていけるといいのではないか。

【委員】 入間地区社会教育協議会の研修で、中学生が大事だという話があり、私自身もその話を聞いて納得した。対象を中学生に絞るというのも、考えられるかと思う。

【委員】 子ども、大人、高齢者という世代のそれぞれにおいては、様々な場がそれぞれにあり、多様な活動も行われている。ただ、全体をつなげる活動が不足している。対象を一つに絞るというよりも、各世代すべてに係わることのできるようなものを目指す必要があるのではないのか。縦のつながりが築けていないのではないのか。もちろん中学生も大事だし、小さい子どもも大事。ただ、それぞれを対象とした活動は既にある。その一つひとつをつなぐことが重要ではないか。

【委員】 私は小学 3 年生くらいまでを想定している。小学 3 年生くらいだと、子ども同士で遊びに行くこともあるし、親と一緒に行くこともある。ただ、子どもに対する活動というのは既に多く実施されていると感じている。また第 3 3 期社会教育委員の提言書で世代をこえたつながりづくりということも触れられている。既存の活動がうまくいかない理由を考えていく必要があるのではないか。

【議長】 委員としては、フォーカスはどこに当てべきと考えているか。

【委員】 全部だと考えている。教育振興基本計画に誰一人取り残さない、という文言が出てくる。文字通り、誰一人取り残さないことが大切で、いかに実現するのか、ということが大切なのではないか。

【委員】 私もフォーカスするのであれば全体だと考えている。社会教育委員会として毎年同じような内容の積み重ねになってしまうかもしれないが、社会は変容しているので、社会に合わせたものにしていくと良いのではないかと。こちらから働きかける、ということを考えてきた時に、例えば高齢者の方であれば高齢者大学などでつながりができるかもしれない。子ども達であれば小学校、中学校を通してお手紙を出すといったことができるかもしれない。私が一番課題と考えているのは、中高年や若者。これらの世代にどうアクションするか。効率性などを考えると、子どもを入り口にするというのは方法の一つかもしれない。子どもについて、今の子どもたちはコロナ禍の影響で、リアルな場で他者と関わる経験が少ない。大学生も、今年卒業した子たちは、大学に入学した時からコロナ禍の影響を受けている。小学生と大学生を会わせた時に、どちらもリアルな場での他者とのコミュニケーションに慣れておらず、そう簡単には世代間を超えることはできないと感じた。ICT化が進み、世代が断絶していても生活できる世の中になっている。ネットで検索すれば答えが出てくるので、他者になにか教えてもらう必要がない。どこかの世代に焦点を当てるのではなく、大人と子どものつながり、相互の関係を築いていくことが大事だと思っている。子どもを対象にして、そこに付いてくる大人を巻き込むという考え方も大事だと思うが、もう少し広い目で見て、色々な人が係わるような取り組みがあるのではないかと。教えてあげる、のような一方向ではなく、一緒にやる、という双方向のコミュニケーションのきっかけが築けるといいのではないかと。入口は子どもだとしても、フォーカスは全体に当てるのがいいのではないかと。

【委員】 活動していく上で、なにか軸を通すというのは大切なこと。それを子どもに置くというのは悪くないのではないかと。子育てするなら富士見市で、と謳っており、その流れに乗って提言書としてまとめるのはいいのではないかと。ただ、子どもに興味がない、身近に子どもがいらない、という人たちもいる。そういった人たちの立場からの係わり方もあるはずなので、それぞれの立場からの係わり方があるのだ、ということはきちんと示していくのがいいのではないかと。

【議長】 対象をどこにするか、各委員からお話を伺った。みなさん近い考えをお持ちで、子どもをきっかけとして、みんなが係わるような仕組みが必要ということだったかと思う。同じように、係わり方についても委員から意見を聞いていきたい。

【委員】 初めはその気がなくても、やってみたら楽しかった、というような好循環を作れたら、と考えている。

【議長】 入りやすさ、楽しさ、出入りの自由さといったことが大切になってくるのだと思う。

【委員】 案外楽しかった、という偶然性も大切だと感じている。期待して行ってみるとそうでもなくて、裏切られるということもある。あまり仕掛け過ぎず、偶然を増やすという視点で、接点を増やしていくこ

とが重要なのではないか。

【委員】 どこで見たか失念してしまったが、生涯学習に取り組めない理由は何か、という問いに対する回答として、忙しい、というものがあつた。日々忙しい人たちに参加して貰うことを考えると、立ち寄りやすさというものは大切なことではないか。場所もそうだし、スケジュールが分かりやすいということも大事なのではないか。

【委員】 まずは参加してもらうために、ハードルを感じさせないということは、前段階があればなんとかかなると思っている。いかに継続してもらうか。参加しないと損だ、参加すると人生が豊かになる、と思ってもらえるよう、活動を見せたり体験してもらったりすることが必要ではないか。またみんな忙しいと言うが、意外と時間はある。時間の使い方や、気持ちの持ち方の問題。参加した時のメリットをもっとPRしていけるといいのではないか。知らないことに参加するのはやはりハードルが高い。一回でも楽しいと思ってもらえればいいので、時間、場所、機会のハードルを低く設定することが大切なのだと思う。

【委員】 イベント的なもので世代を超えられたらおもしろいのではないかと考えている。富士見市は田んぼの地域と畑の地域、そして都心に通勤する地域とがある。せっかくこんなに農家の人が多いのだから、もっと活用できないか。年間を通して、例えば田植え体験から始まり収穫まで。また豊作の時にはお祭りもあるので郷土芸能を取り入れ連携性を持たせる。どんどん焼きなどの昔の風習も活用して、単発でイベントを開催するのではなく、年間を通じて富士見市の歴史や作物に触れ親しむ機会を作れないか。農家の人だけ、子どもだけ、ではなく、富士見市全体が係わることができ、富士見市の歴史や農業のことなどが知れる、そんなつながりの場を作れないか。

【議長】 とてもおもしろいと感じた。一つのことに興味を持ったら、それをきっかけにずっと辿っていけるきっかけがあるはず。また一つひとつでやっているものよりも、組み合わせた方がきっとおもしろい。

【委員】 全体的につながっているものの中から、自分が興味のあるところに参加する、という形がいいのではないかと思う。

【委員】 体系化された情報はなかなかない。単発でそれぞれにやっているからつながらない。バラバラなものをつなげる人がいると、体系的に見ることができる。自分が全体のどこに興味があるのかイメージできるような情報があると、おもしろいのではないかと感じた。

【議長】 体系化すると、利用者の人も選ぶことができるし、やっている側も気付きがある。

【委員】 お正月の時期に、どこかの公共施設でしめ縄づくりをやっていた。しめ縄づくりだけでなく、他のお正月のイベントも併せて開催できるとよいのではないか。

【委員】 先日ふじみ野交流センターで開催されたふじみ野文化祭に参加した。参加団体ごとにつながりがあるとおもしろいのではないかと感じた。他の団体とつながろうとしても、色々と問題点もあると思う。

そういう時、励ます人の存在は大きい。体系化されていること、つなげる人がいること、励ます人がいること、これらが揃うといいのではないか。

【委員】 幼児サロンには必ず保護者が付き添う。その保護者に対して、子どもが幼児サロンを卒業するタイミングで、スタッフにならないか声をかけている。楽しい経験をしてきた人は、案外参加してくれるもの。スタッフが参加者で構成されているという形ができています。新しい人がスタッフとして入ると、今までにない新しいアイデアがたくさん出てくる。「やってあげる」という場ではなく、参加者と一緒に作る場にできると、それはとても楽しい時間になるし、その人の特技を生かすことができる。地域には様々な特技を持った人がたくさんいる。特技を生かせる場があると、人はいきいきと活動できる。スタッフのいきいきとした姿を参加者に見せることができると、とてもいい効果がある。また参画するという事に慣れてくれるので、お子さんが小学生になるタイミングで次は地域子ども教室に声をかけると、スタッフとして参加してくれる。人がたくさん集まると、何か不得意なことがあったとしても、それは他の誰かが得意なことだったりする。苦手なことはやらなくて済むので、無理せず自分の範囲で参加することができる。なにか一つに参加して貰えると、その人の得意な分野の活動につなげることもできる。一緒につくりあげる、という人を増やすことが大切。自分にとって良い地域とはどういう地域か、その地域をつくるためにはどうしたらいいか、考える人を増やすことが大切なのではないだろうか。市内の色々な所で、地域密着型の活動があるといいのではないか。

【委員】 私は継続性が大切だと考えている。年に一回、毎年やる、というような継続ではなく、いかに子どもに続けて参加してもらおうか、ということが大切ではないか。式次第等を一つに固めてしまうと、興味がない子は次から参加しなくなる。また、一回でも欠席するとついていけなくなるようなものも継続性を下げる。自由に参加できる場の提供だけでもいいのかもしれない。また先程委員から発言があったが、年間の各種イベント等を一つのスケジュールにまとめるというのは、とても有効なのではと感じた。運営側の負担を軽減するためにも、既存のものを取り入れながら、月一回でも活動を続けていくことが大切なのではないか。

【議長】 対象と係わり方について、各委員から話を伺った。色々な仕掛けをつくり、それをうまく組み合わせることで色々な人が係わるようにする、というようなまとめ方ができるのではないか。次回は同じように、地域と場について意見を伺いたい。

#### 4 その他

- ・各会議への参加報告

**【委員】** 入間地区社会教育協議会より、1月に臨時理事会が開催された。県社連脱退の件について説明があった。また入間地区社会教育協議会の事務局が令和6年度から富士見市になるということも説明があり、昨日事務局の引継ぎにも立ち会った。また2月には生涯学習フォーラムが開催された。講演とパネルディスカッションを行った。

**【事務局】** 令和6・7年度は富士見市が事務局担当市となる。ご負担が大きく申し訳ないが、委員にも社会教育委員部会の部会長を務めていただくことになる。また他の委員のみなさんも、社会教育委員部会研修会や生涯学習フォーラムなど、会場が富士見市内となるので、可能な限りご参加いただければと考えている。また生涯学習フォーラムについて、事務局も参加させていただいた。一橋大学の伊藤将人先生から『なぜ?』から考える、“これから”の地域社会」というテーマで講演いただいたが、とても興味深い内容だった。興味がある方は当日の資料をお渡しするので、お声がけいただきたい。